

小学校第6学年音楽科学習指導案

1 題材名 リズムをつくってアンサンブル

2 題材について

(1) ねらいについて

本題材では、楽器の材質の違いによる音色を感じ取り、それに合う2小節のリズムを作つて、響の良い組み合わせを考えながら、反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルを作る活動を行う。この活動を通して、楽器の組み合わせから生まれてくるひびきの美しさを味わうことをねらいとした。活動にあたっては、プログラミングを活用して試行錯誤しながらリズムを作る活動を取り入れ、児童が主体的に工夫をしながらリズムづくりをできるようにしていきたい。

(2) 系統について

第5学年	第6学年	中学校
いろいろな音のひびきを味わおう ・打楽器でリズムアンサンブル	いろいろな音のひびきを味わおう ・リズムをつくってアンサンブル (本単元) 和音の美しさを味わおう ・和音の音で旋律づくり	イメージをもとに、構成を工夫して音楽を作ろう ・リズムアンサンブルを作ろう

児童は、第5学年時に打楽器を使ったリズムアンサンブルを経験してきている。本学年において、友達と協力しながら再びリズムアンサンブルを学び、ひびきの美しさを感じる活動が設定されている。また、この活動は中学校音楽における「リズムアンサンブルを作ろう」につながっていく。

(3) 児童の実態について

※一部省略

本題材に関する意識調査の結果は以下のとおりである。

単元に関すること	1	2	3	4
1 音色やリズムについて興味を持って学習している。				
2 音やリズムの重なりを意識して歌ったり、演奏したりすることができる。				
3 友達の歌や演奏に合わせて、歌ったり、演奏したりすることができる。				
4 自分のパートを正確に歌ったり、演奏したりすることができる。				
主体的・対話的で深い学びに関すること				
1 見通しを持って学習し、進んで調べたり、考えたりしながら学ぼうとしている。				
2 友だちの考えと比較したり、友だちの考えとつなげたりしながら、よりよい考えを作り出そうとしている。				
3 これまで学んできたことと新しく学んだことを結びつけて考えようとしている。				
4 振り返りの中で、次の時間へ向けての問いや課題について考えようとしている。				

4：よく当てはまる、3：当てはまる、2：あまり当てはまらない、1：当てはまらない
 全体的な傾向として、音楽に関して苦手意識を持つ児童が多い。その理由を聞いてみると、

うまく合奏したり、歌ったりすることができない。リズムやテンポがわかりにくいなどが挙げられた。児童はこれまで合唱を多く経験してきており、合奏や作曲をする経験が少なめであることも明らかになった。

また、学びについても、他教科と比較して低い値となった。特に、これまでの学習と関連づけて学んだり、友達の意見を取り入れながら考えたりすることについては苦手意識を持っている。同時に課題解決型の授業デザインがあまり設定されてこなかったことも明らかになった。

(4) 指導にあたって

①主体的・対話的で深い学びの実現

- ・自分で2小節のリズムを作ること、またそれを友達と組み合わせたり、楽器を選択したりするなど、児童が選択する場面を多く設定し、多様な考えにつながる学習課題を設定する。
- ・学習ガイドを活用した児童主体の対話的な学びの場面を設定し、音楽を形づくっている要素に目を向けさせることで音楽の見方・考え方を生かした深い学びの実現につなげる。
- ・教師用デジタル教科書のコンテンツを活用した短時間で分かりやすい課題提示を行うとともに、一人一台のタブレット端末を活用した自動演奏を利用し、試行錯誤しながらリズムアンサンブルを体験する活動を取り入れることで、対話的な学びを促す。

②情報教育・プログラミング教育の推進

- ・様々なリズム・パターンを考えたり、組み合わせたりする場面においてプログラミングを行い、つくったリズムを実際に自分たちで表現させ、それぞれの表現のよさを認め合うといった学習を展開する。
- ・プログラミングを行う際は、一人一台のタブレット端末を活用する。またプログラミング言語として scratch を活用し、試行錯誤の中で自分の表現したいリズムを作成する活動を行うことで、学習意欲の向上を図る。また、互いの作成したリズムを紹介し合う中で、その面白さや音色や強弱、反復や変化など、「音楽を形づくっている要素」やその働きに気づかせる。

3 単元の目標

- 楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして、音楽を作ったり演奏したりすることができる。

4 単元の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルに取り組もうとしている。	楽器の音色やリズムを聴き取り、その組合せによる響きの良さや面白さを感じながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を使って楽器の特徴を生かした音楽を作っている。	いろいろな音楽表現から得た発想をもとに、楽器の特徴を生かしたリズムを作り、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルを作っている。	楽器の音色、リズムの反復、変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれる良さや面白さを感じ取っている。



5 指導計画及び具体的な評価規準（3時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	具体的な評価規準・評価方法
1	<p>学習の見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で行ってきたリズムの学習を振り返る。 打楽器の音色や響きの違いを掴む。 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などについて確認する。 	<p>リズムアンサンブル演奏会を行うことを伝え、学習の見通しを持たせる。</p> <p>既習事項を確認し、今後の学習で活用できるようにする。</p> <p>様々な打楽器を用意し、その音色や響きを確認することで、自分が使用したい楽器を選択させる。</p>	<p>【関心・意欲・態度】（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルに取り組もうとしている。
2 (本時)	<p>リズムを作り、作ったリズムをグループで組み合わせ、演奏を行う。</p>	<p>プログラミングソフト（scratch）を活用して、自分の表現したいリズムを作成させる。</p> <p>3人組でリズムを組み合わせ、楽器を使って実際に演奏させるようにする。</p> <p>音楽の仕組み（反復、問いと答え、音楽の横と縦の関係、等）を取り入れるよう促す。</p>	<p>【創意工夫】（観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色やリズムを聴き取り、その組合せによる響きの良さや面白さを感じながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係をを使って楽器の特徴を生かした音楽を作っている。
3	<p>リズムアンサンブル演奏会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表し、感想交流を行う。 学習のまとめを行う。 	<p>グループごとに演奏させ、感想をワークシートに書き込ませる。</p> <p>全員で一斉に演奏し、音色や響きを味あわせるようにする。</p>	<p>【鑑賞】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色、リズムの反復、変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれる良さや面白さを感じ取っている。 <p>【技能】（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな音楽表現から得た発想をもとに、楽器の特徴を生かしたリズムを作り、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルを作っている。

6 本時の学習

(1) 目標 音色やリズムの特徴を生かして組み合わせることで、表現をイメージに近づけることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問(◎)・指示(○) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点・評価
た 5分	1 「広い空の下で」を歌い 学習意欲を高める。 2 本時のめあてを確認し、 学習の見通しを持つ。	○みんなで元気よく歌いませう。(学習ガイド) ○本時のめあてを確認ませう。(学習ガイド)	・基本的な学習の流れについては学習ガイドを中心に進めるようにする。教師は必要に応じて指示や発問を補うようにする。 ・伴奏も児童が行う。
めあて リズムを組み合わせ、オリジナルアンサンブルを作ろう			
か 10分	3 4分の4拍子の中で、2 小節分のリズムを考える。 4 プログラミングソフトを 活用して、自分のイメージ に合うリズムを作る。	◎どんなリズムが自分のイメージに合うのか考えませう。 ○プログラミングソフトを使ってリズムを考えませう。(学習ガイド)  ○事前に選択した楽器を使い、作成したリズムを確かめませう。(学習ガイド)	・4分の4拍子の中で、2小節分のリズムを考えさせる。使用する音符や休符は以下の図のとおりとする。 <使用する音符や休符>  ・プログラミングソフトはscratchを活用し、児童が操作活動を行いながらリズムを作らせる。 ・作ったリズムを確認するために、ヘッドホンを用意する。 ・前時に楽器を選択させておき、自分の作成したリズムを実際に演奏し確認させるようにする。
も 25分	5 3人グループで20小 節のリズムアンサンブル を考える。 6 考えたリズムアンサン ブルの練習をする。	○3人グループでリズムを組み合わせ、リズムアンサンブルを作ませう。(学習ガイド) ○リズムの組み合わせが完成したグループは演奏の練習をませう。(学習ガイド)	・プログラミングソフト活用し、音の重なりを確認しながら、20小節のリズムアンサンブルを作成させる。 ・繰り返し方や重ね方を工夫させるようにする。 ・音楽の仕組み(反復、問いと答え、音楽の横と縦の関係、等)を取り入れるよう促す。
り 10分	7 本日の振り返りを行う。	○本時の感想をワークシートに書かせませう。(学習ガイド)	・1つのグループに演奏させる。 ・感想をワークシートに書かせ、数名発表させる。

◆音楽表現の創意工夫(ワークシート)

学習状況B 楽器の音色やリズムを聴き取り、その組合せによる響きの良さや面白さを感じながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係をjつて楽器の特徴を生かした音楽を作っている。

学習状況A 楽器の音色やリズムを聴き取り、その組合せによる響きの良さや面白さを感じながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を意図的に位置付けながら楽器の特徴を生かした音楽を作っている。

(Bに達しない児童への手立て) プログラミングを通して、音の重なり等について振り返らせる。